

横浜市における農地の現状とその保全

－ 市民農園の視点から －

11108071 白鳥 貴也

11108117 本城 裕介

11108139 湯本 誠周

1 研究の背景

近年、農業従事者の高齢化、低価格農産物の輸入などにより全国的に農業従事者が減少している。それに伴い、農地の減少や数年から数十年放置される遊休農地の増加がみられる。そこで、本研究では、その一対応策としての市民農園に着目した。

この市民農園とは、一般に都市住民など農家以外の人々が、レクリエーションとしての自家用野菜・花の栽培、高齢者の生きがづくり、生徒・児童の体験学習などの多様な目的で小面積の農地を利用して野菜や花を育てるための農園のことをいう。

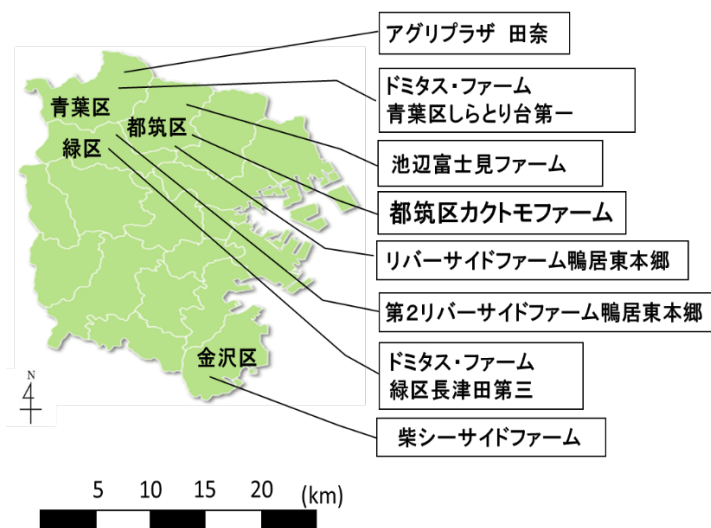


図 1 調査研究対象とした市民農園の位置

2 研究の目的

本研究では、農地の保全に向けて積極的に市民農園の整備を推進している横浜市を事例として取り上げ、市民農園制度の現状、市民農園の管理者や利用者を対象とした意識調査等を通して市民農園の実態を把握するとともに、現状での課題や問題点を整理し、市民農園を活用した農地の保全方策について追究することを主な目的とする。

3 調査研究方法

全国および横浜市における農地面積や農地関連法令の適用状況、市民農園の開設状況等に関わる資料収集を行い、その解析を通して農地面積や市民農園の推移等その実態を把握した。

つぎに市民農園管理者、利用者を対象とした意識調査やヒアリング調査を行い、市民農園に対する現状や問題点を把握した。以上の結果・解析をもとに横浜市における市民農園の視点からの今後の農地保全のあり方について考察した。

なお意識調査については、図 1 に示す調査許可が得られた 8 箇所の市民農園を対象とした。また意識調査の内容については、図 2 に管理者、図 3 に利用者を対象とした主なアンケート内容を示した。

- 1.管理者の年齢層
- 2.市民農園の開設方法
- 3.市民農園開設前の主な土地利用状況
- 4.農園利用者との主な契約期間
- 5.貸し借りによる場合の借地利用料金
- 6.利用者の主な形態
- 7.利用者の主な年齢層
- 8.利用者の募集方法
- 9.栽培指導体制
- 10.市民農園の課題

図 2 管理者への主なアンケート内容

- 1.年齢層
- 2.市民農園の情報をどこで知ったか
- 3.市民農園を利用した理由
- 4.自宅から市民農園にかかる実際の時間
- 5.自宅から市民農園にかかる希望の時間
- 6.希望の利用料金(年額)
- 7.今後の市民農園に求めるもの
- 8.現在の市民農園に対する満足度
- 9.市民農園が農業への関心に与えた影響

図 3 利用者への主なアンケート内容